

# 超高齢社会と持続可能性について

人文社会科学研究科教授

倉阪秀史

# 千葉大学COEスタートアッププログラム「人口減少・環境制約下のコミュニティ形成」プロジェクト(2010～2012)

直面する社会的課題

人口減少下、環境制約下において、エネルギー・食糧・都市機能を確保し、生活の質が高いコミュニティをどのようにして維持していくか

本研究チーム

人文社会科学研究科の公共政策研究グループと工学研究科のまちづくりの研究グループとの文理融合で取り組む

- 倉阪秀史大学院人文社会科学研究科・教授(46)
- 広井良典大学院人文社会科学研究科・教授(49)
- 大石亜希子大学院人文社会科学研究科・准教授(47)
- 岡部明子大学院工学研究科・准教授(47)
- 宮脇勝大学院工学研究科・准教授(43) ※年齢は研究開始時

倉阪秀史編／大石亜希子・岡部明子・  
倉阪秀史・広井良典・宮脇勝著『人口減少・環境制約下で持続するコミュニティづくりー南房総をイメージエリアとしてー』  
(千葉日報社)

2012年7月10日刊行、800円



はじめに(倉阪秀史)

第一章 転機を迎えている日本

第二章 持続する社会の条件

第三章 持続部門を発展させるための地域政策

第四章 人工資本のメンテナンスを行う地域経済の可能性

第五章 自然資本を活用する地域経済の可能性

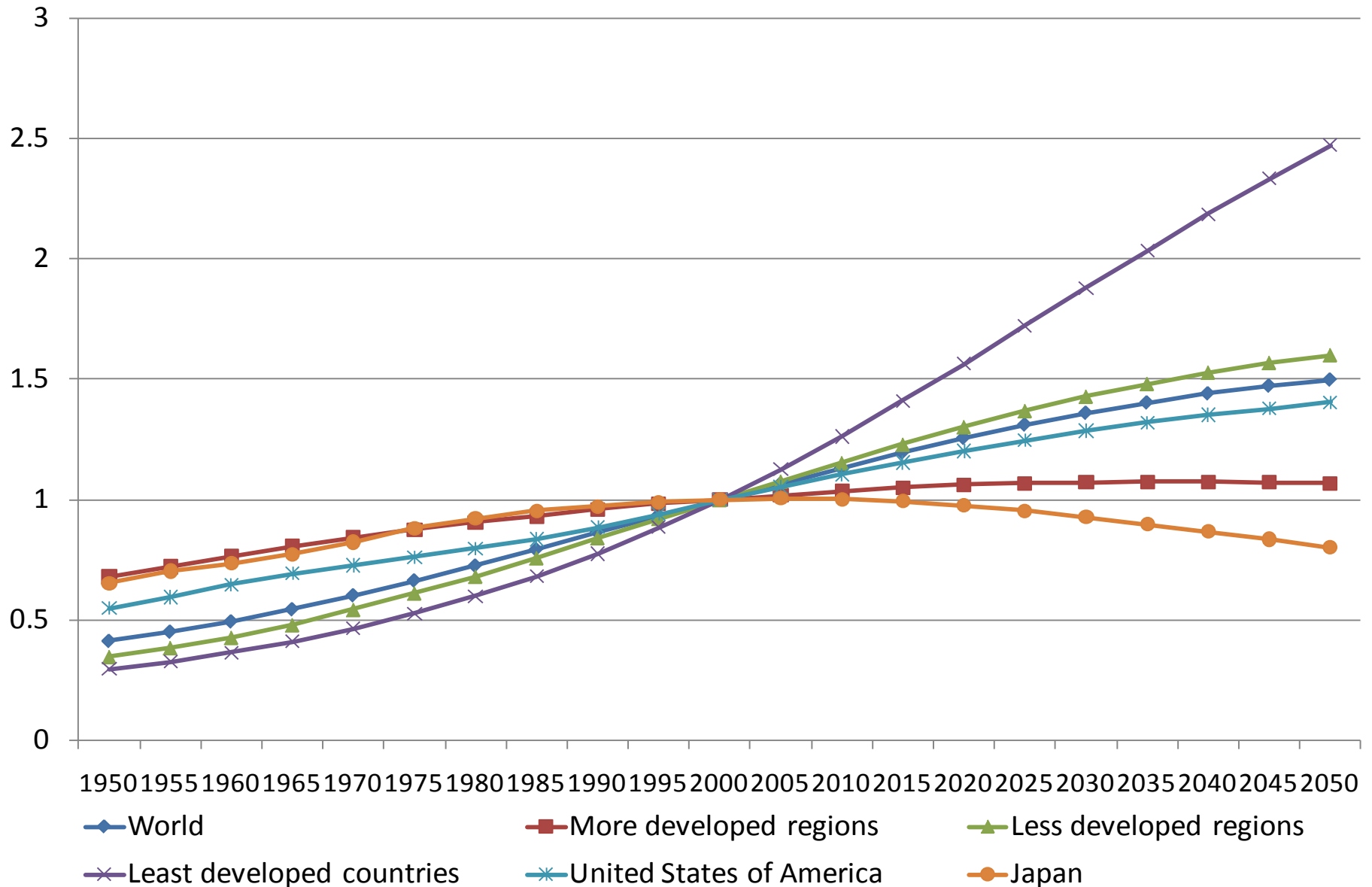
第六章 人と人とのつながりを強くするコミュニティとまちの構造

第七章 持続可能性の観点から地方自治体の政策評価を行う

第八章 住み続けられる地域づくりに向けた政策

おわりに(岡部明子)

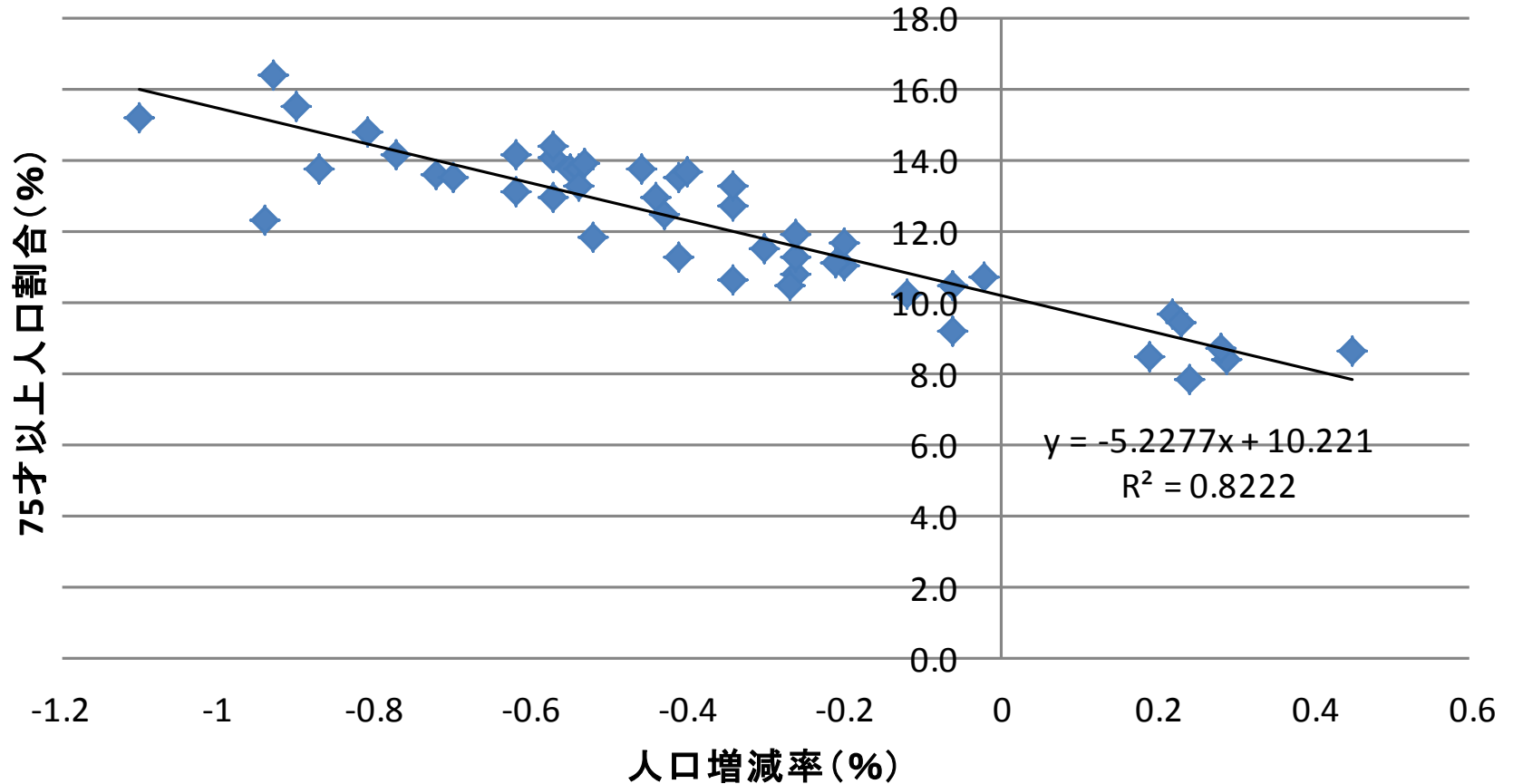
図 人口の長期予測（中位推計）（2000年=1とした場合）



（出典）Population Division of the Department of Economic and Social Affairs of the United Nations Secretariat, World Population Prospects: The 2008 Revisionのデータより筆者（倉阪）作成。横軸は年。縦軸は2000年=1とした指標表示。

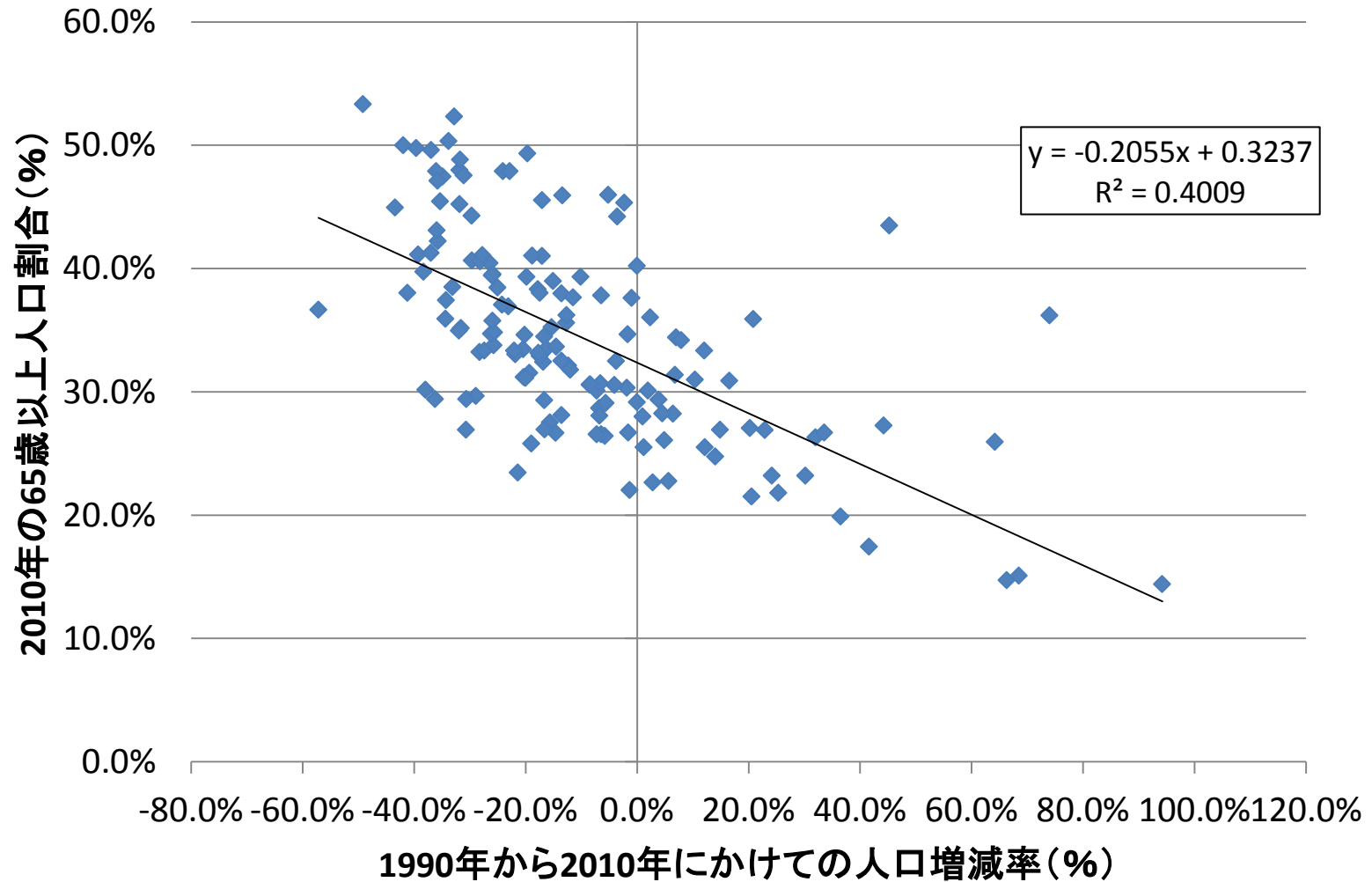
# 人口の減少と高齢化の進行

都道府県別人口増減率×75才以上人口割合



(出典)人口推計(平成21年10月1日現在)より筆者作成

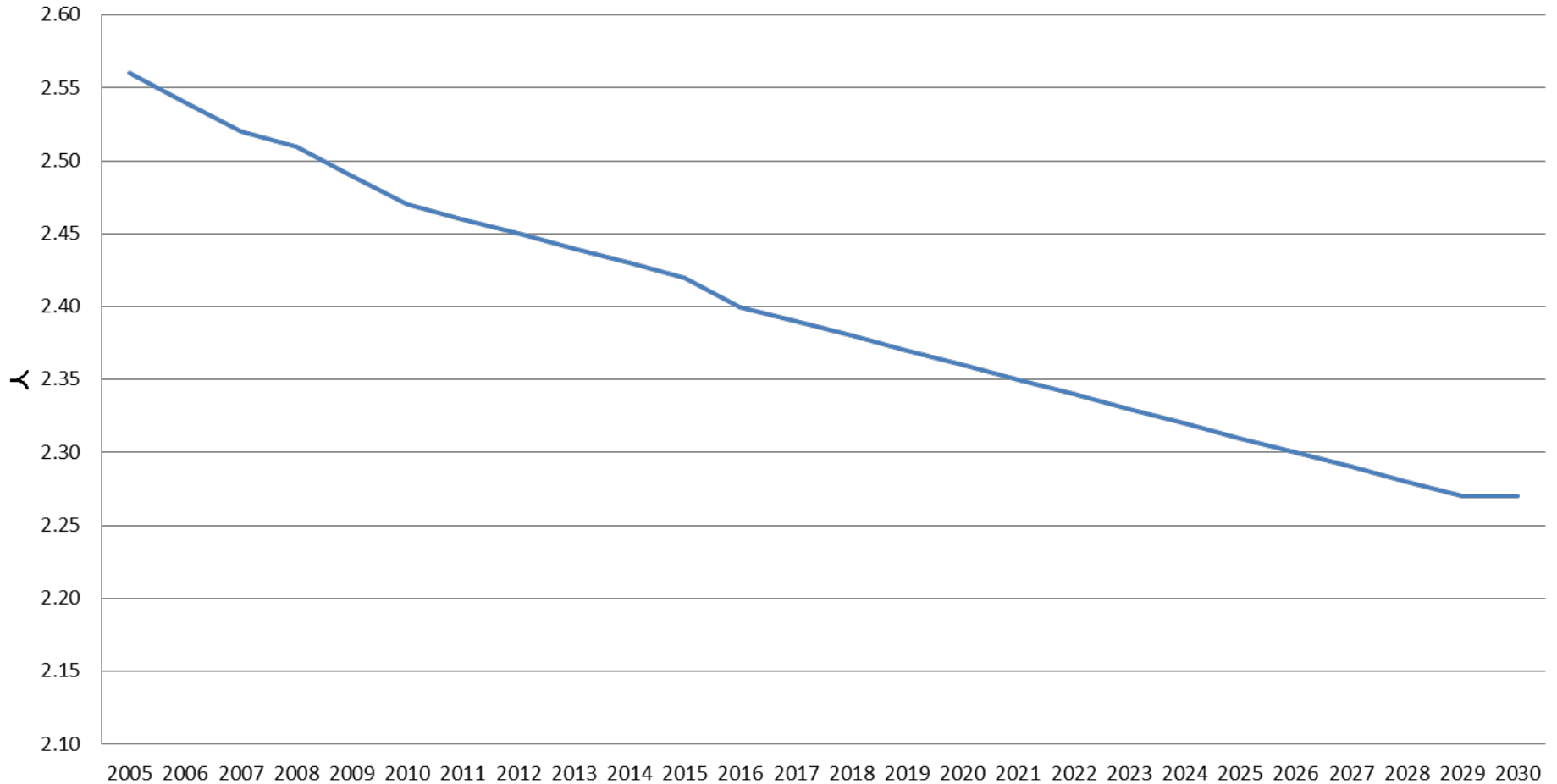
## 館山市の「字」単位の推移(人口増減率-65歳以上人口割合)



(出典) 千葉県企画部統計課「千葉県年齢別・町丁字別人口」平成2年版・平成22年版より筆者(倉阪)作成

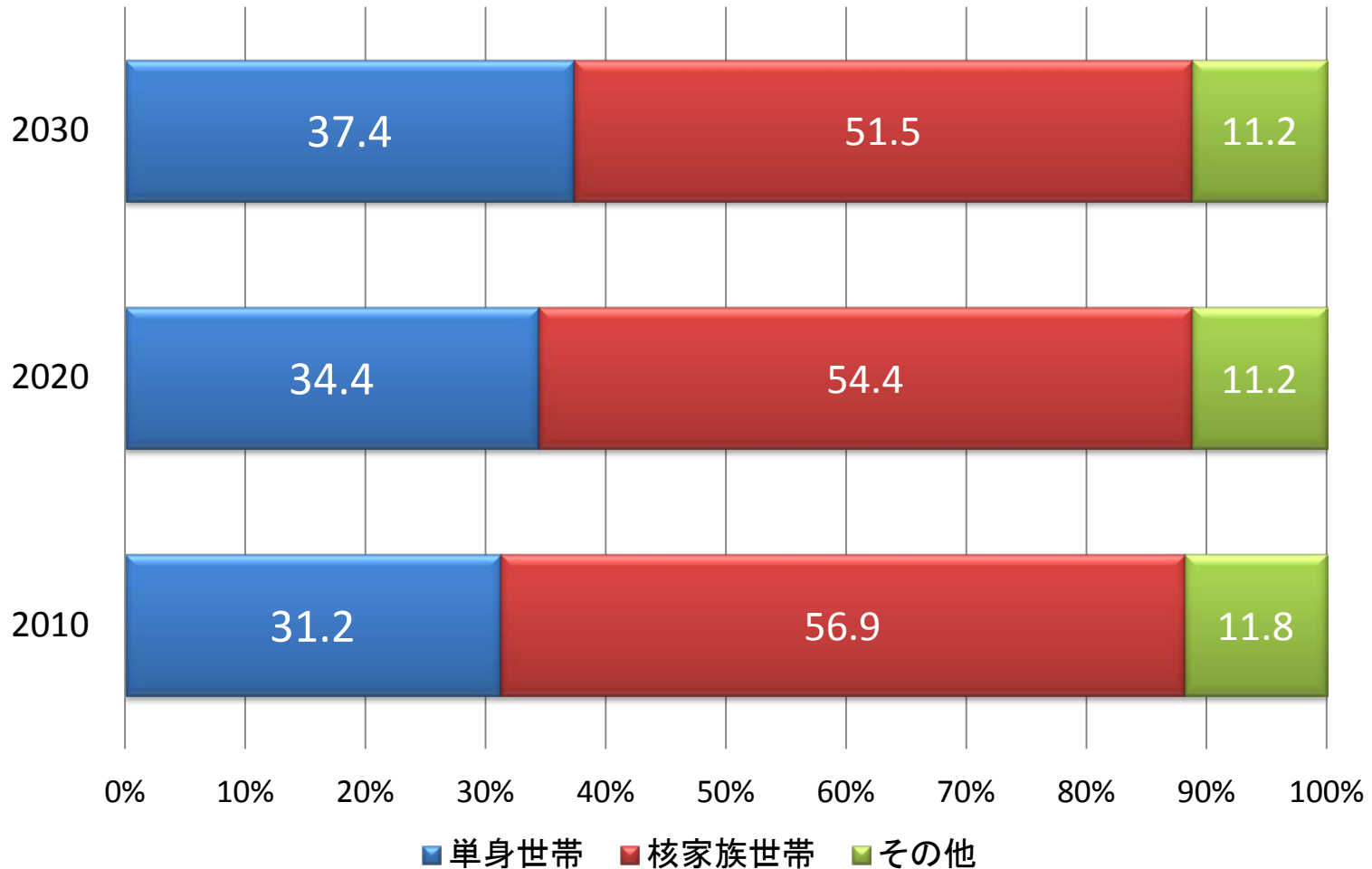
# 人と人とのつながりが 希薄な社会の進行

## 平均世帯人員



(出典)国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数の将来推計(全国推計)』(2008年3月推計)より筆者作成

# 人と人とのつながりが 希薄な社会の進行





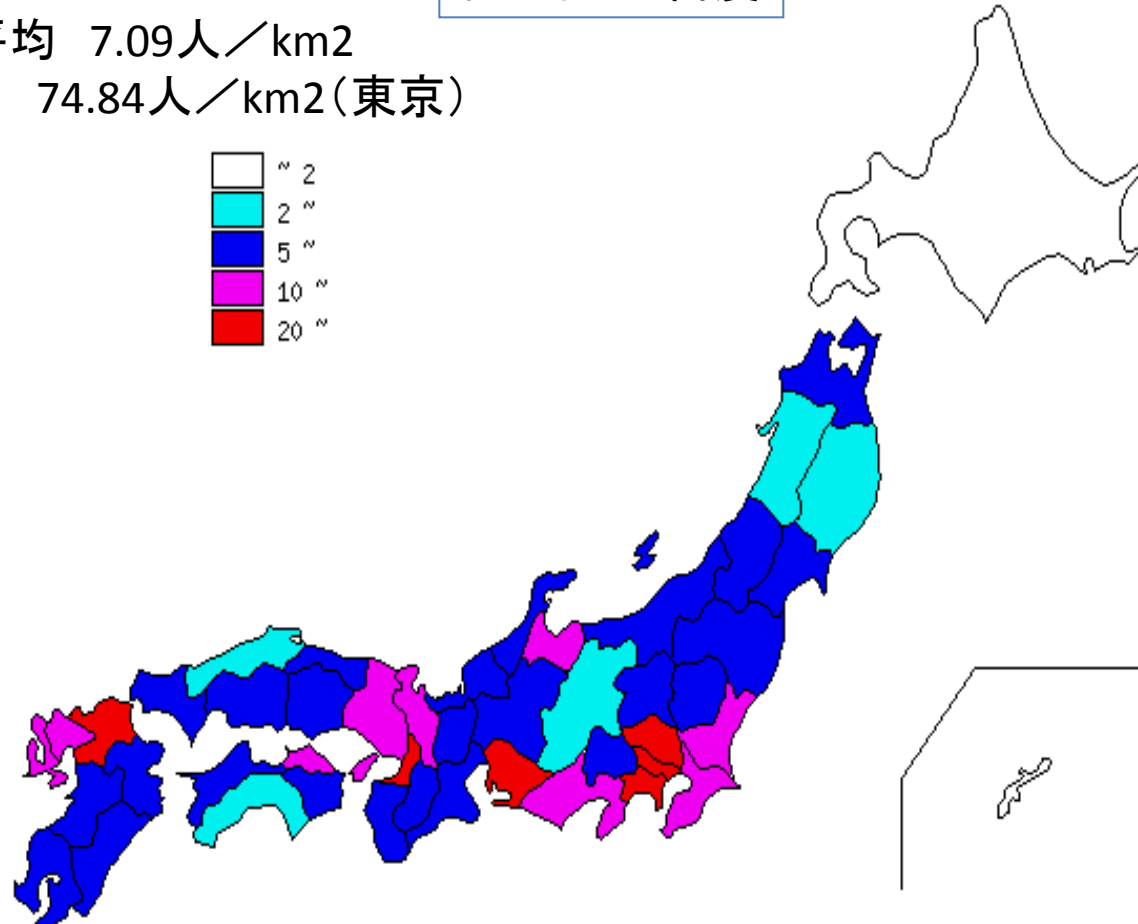
# 人と人とのつながりが 希薄な社会の進行

1947年

全国平均 7.09人/km<sup>2</sup>

最高 74.84人/km<sup>2</sup>(東京)

おともだち密度



(出典)大石亜希子「くらしと社会に関する意識調査にみる社会的つながりと信頼醸成」2010年12月人口減少・環境制約下のコミュニティ形成セミナー資料

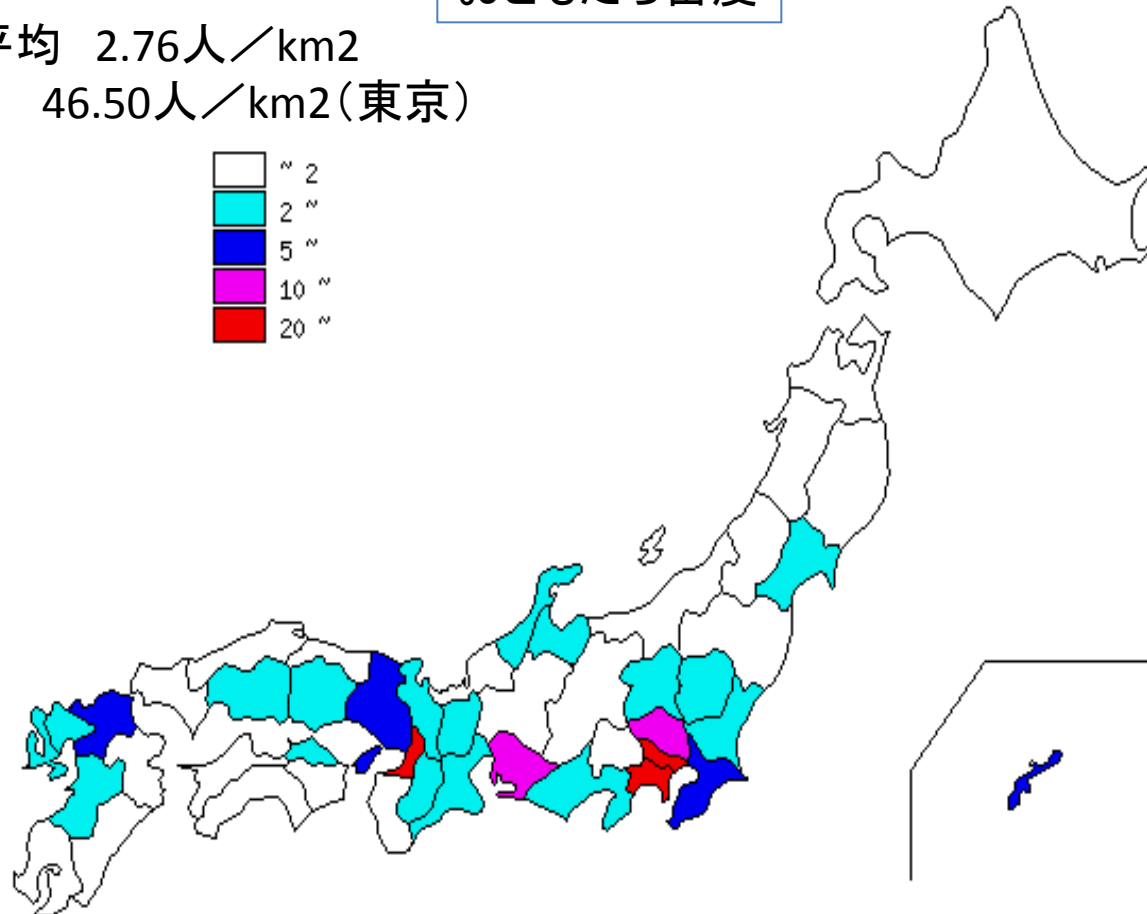
# 人と人とのつながりが 希薄な社会の進行

2030年

全国平均 2.76人/km<sup>2</sup>

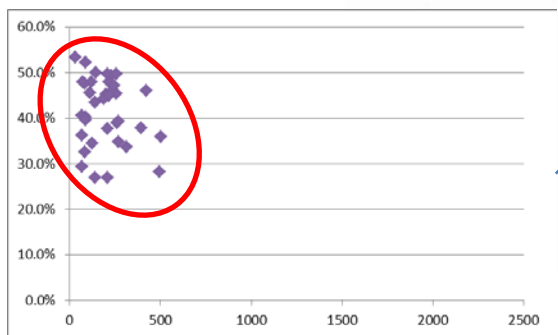
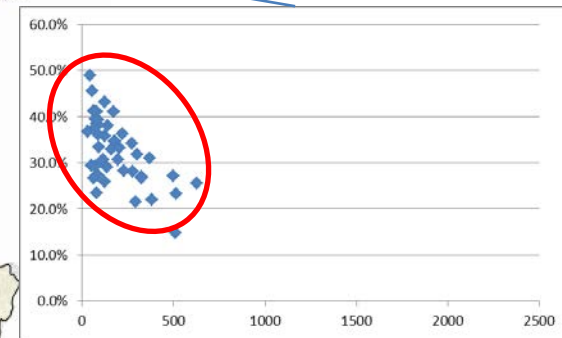
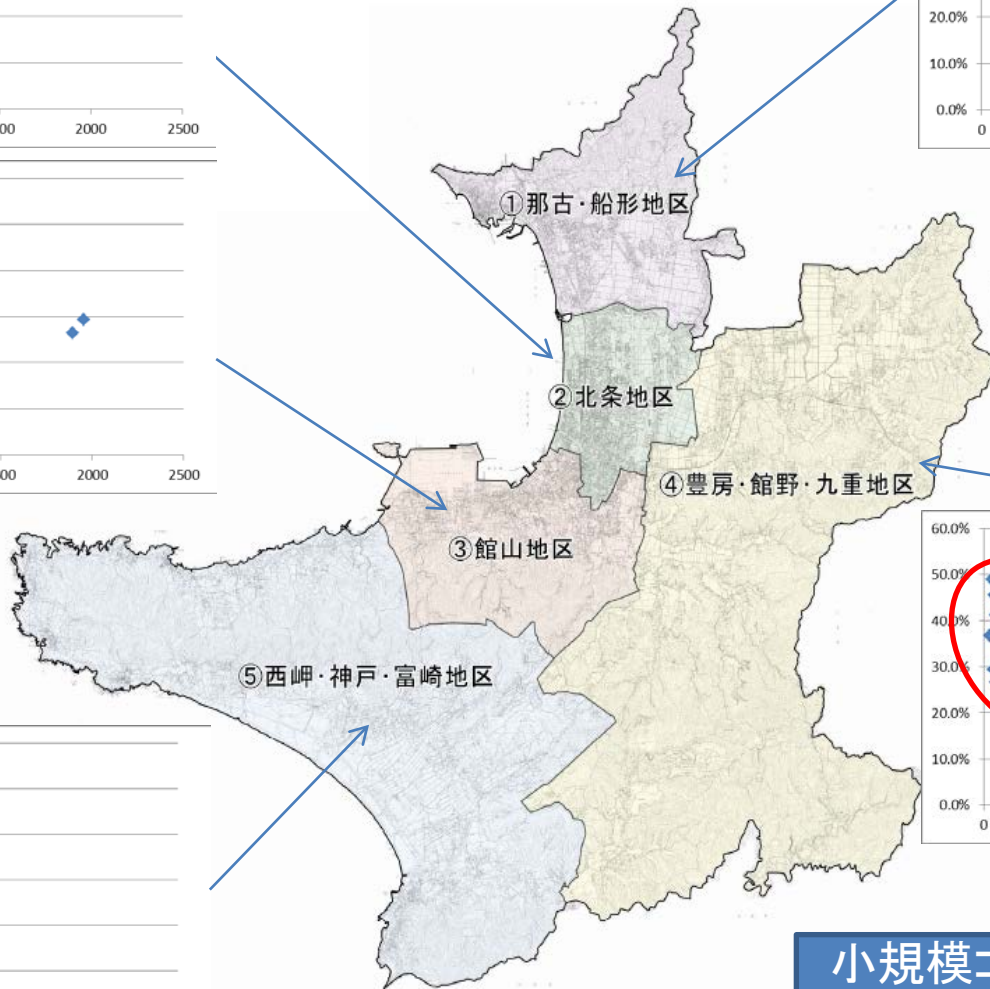
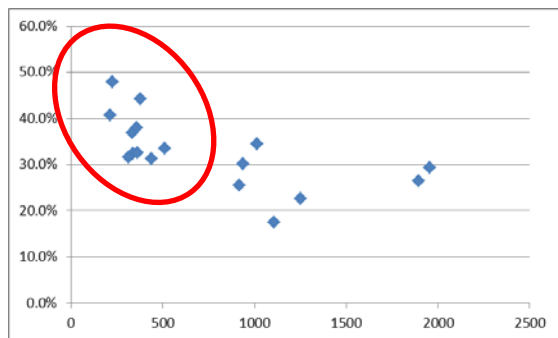
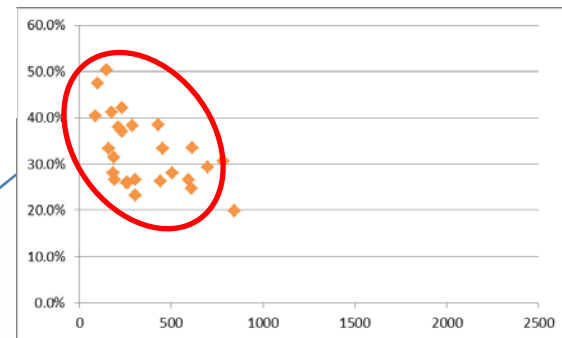
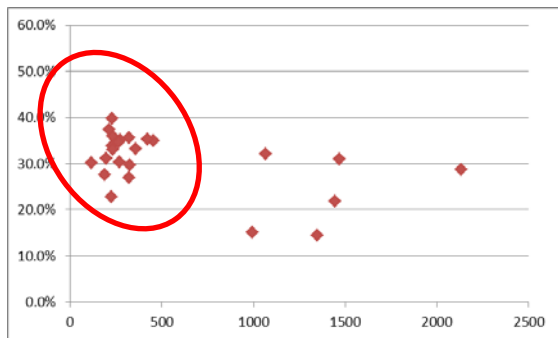
最高 46.50人/km<sup>2</sup>(東京)

おともだち密度



(出典)大石亜希子「くらしと社会に関する意識調査にみる社会的つながりと信頼醸成」2010年12月人口減少・環境制約下のコミュニティ形成セミナー資料

館山市の地域区別の「字」現況(2010)  
 (横軸:人口、縦軸:65歳以上人口割合)

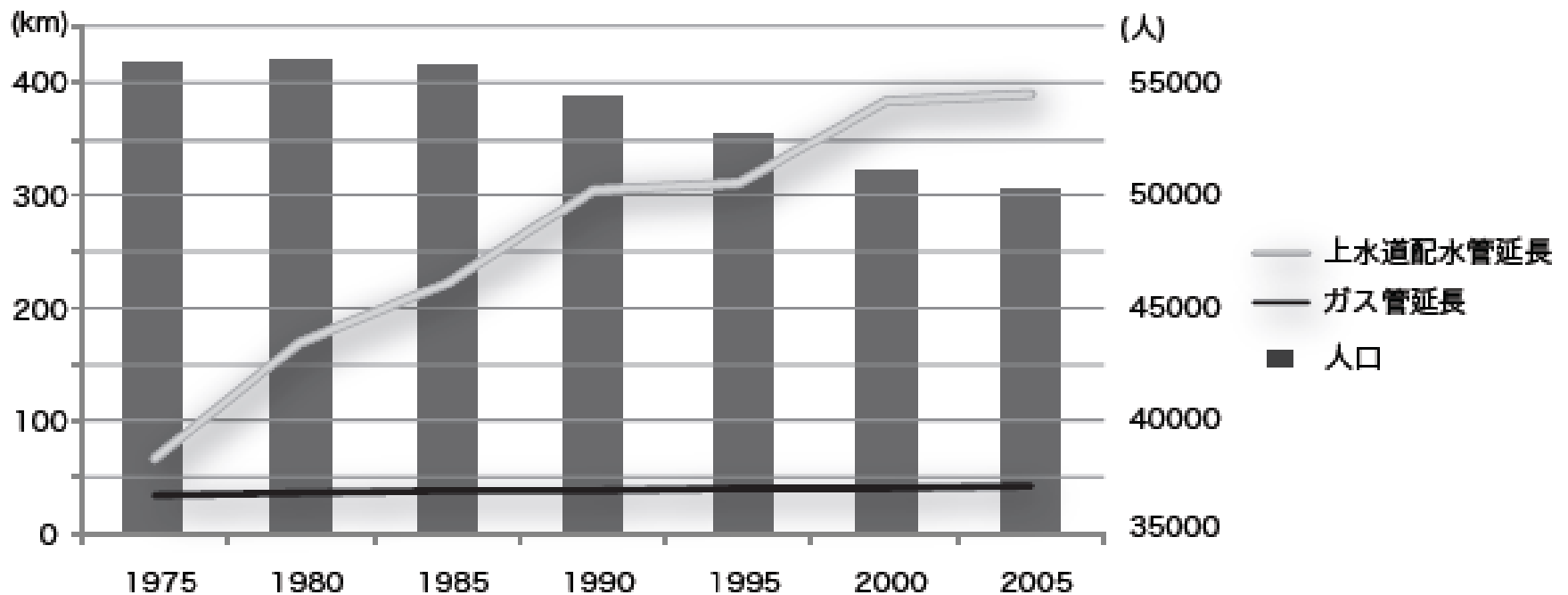


小規模コミュニティの崩壊  
 のおそれ

(出典) 地図: 館山市「都市計画マスタープラン」平成21年4月20日、2010年人口と65歳以上人口割合: 千葉県企画部統計課「千葉県年齢別・町丁字別人口」平成22年版より

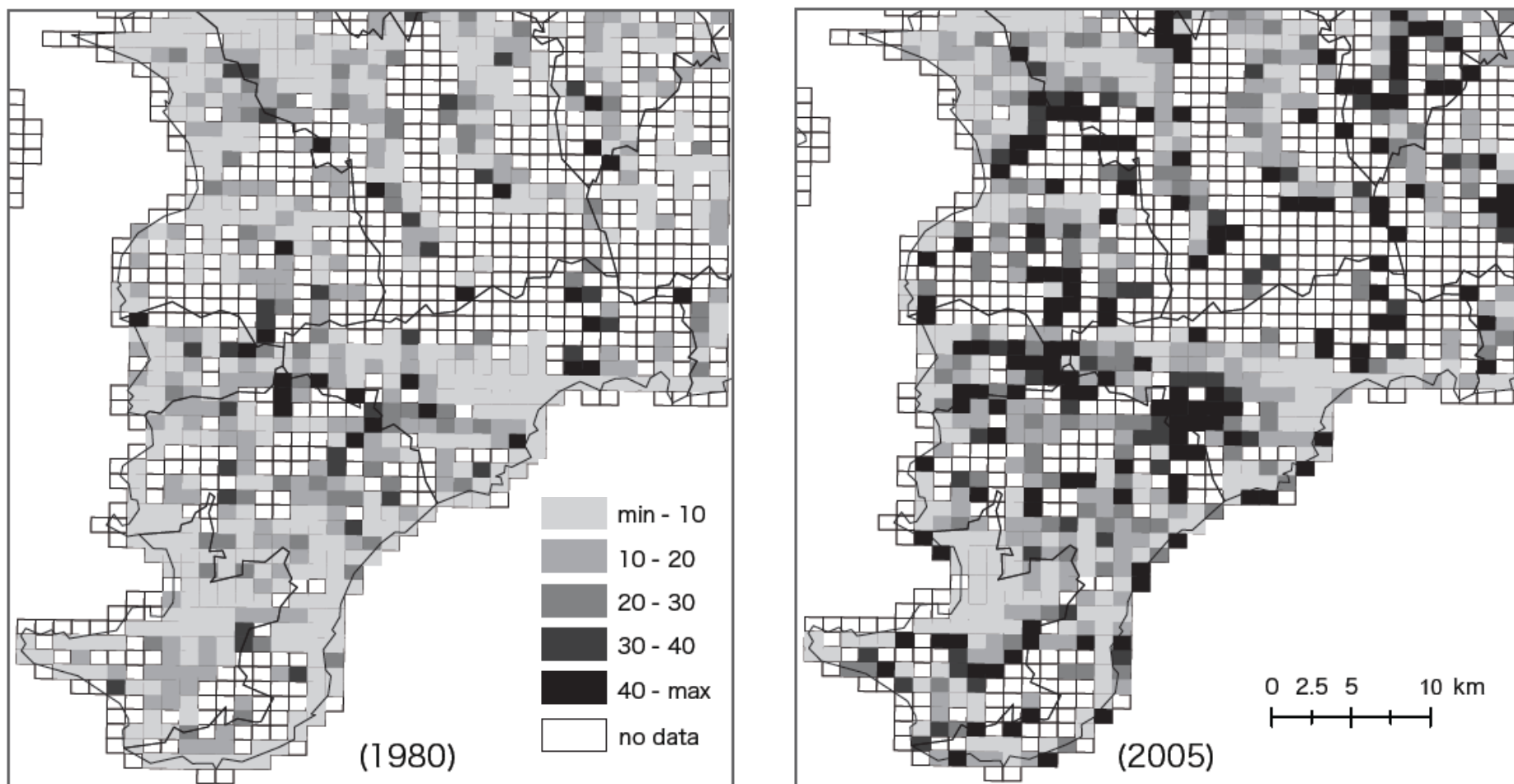
# 人口減少と公共インフラ

館山市の上水道総延長は、1975年の66キロから、2005年の389キロまで急増している。利便性の向上と、都市的なライフスタイルの浸透が原因。



(出典)館山市「館山市の統計」をもとに筆者(岡部)作成

図表28 南房総地域の1人あたり道路延長(1kmメッシュ、1980年、2005年)

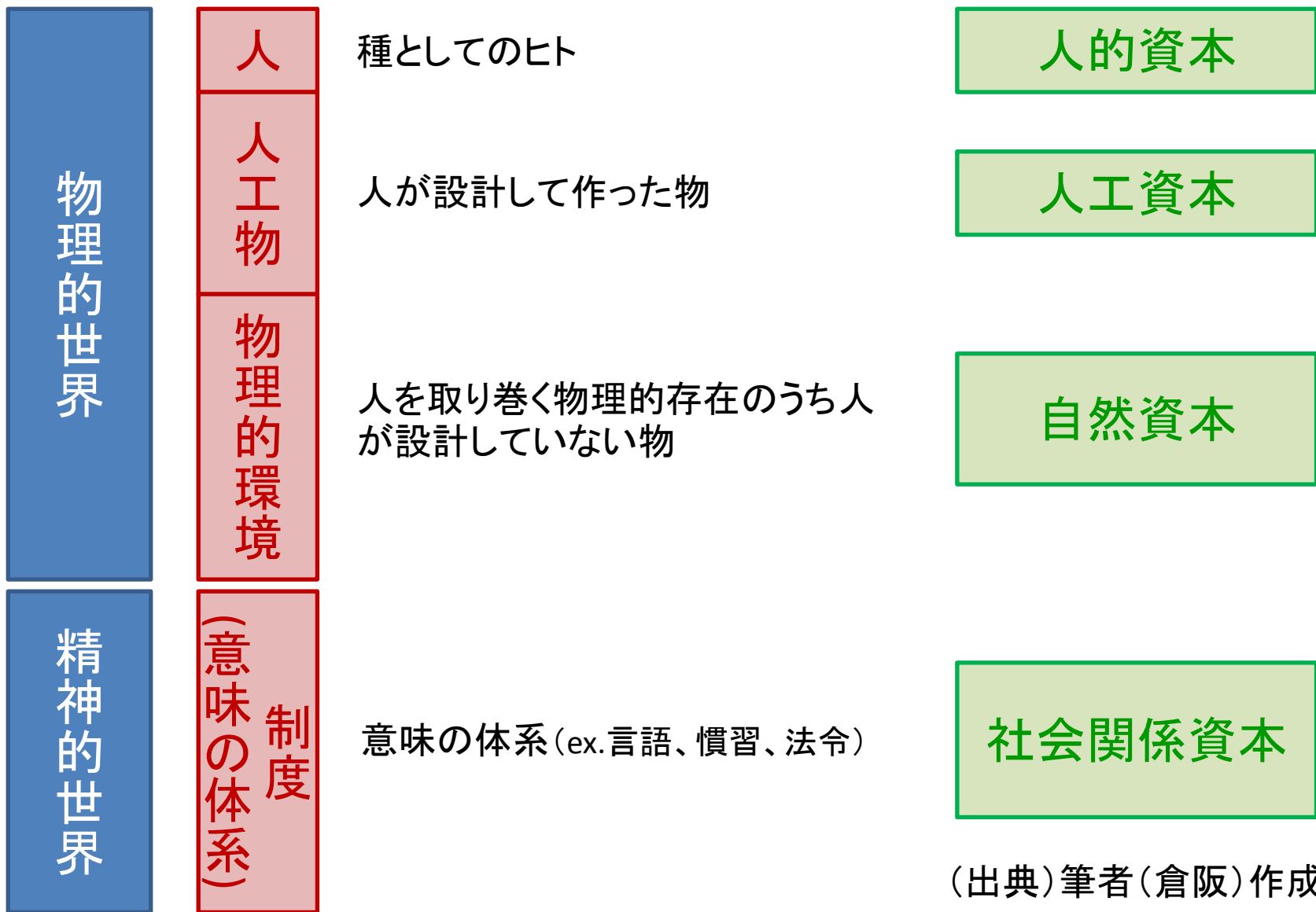


(出典)総務省「国勢調査報告」および国土数値情報をもとに筆者(岡部)作成

# 生物多様性の危機

- 第1の危機(人間活動や開発による危機)
  - － 鑑賞用や商業的利用による個体の乱獲
  - － 盗掘、過剰な採取など直接的な生物の採取
  - － 沿岸域の埋立てなどの開発や森林の他用途への転用などの土地利用の変化による生息・生育地の破壊と生息・生育環境の悪化
  - － 河川の直線化・固定化や農地の開発などによる、広大な氾濫原、草原や湿地の消失
- 第2の危機(人間活動の縮小による危機)
  - － 伐採や採草などが行われなくなった里地里山
  - － 放棄された農地
  - － 間伐などの管理が十分に行われない森林
- 第3の危機(人間により持ち込まれたものによる危機)
  - － 外来種による生態系の攪乱
  - － 影響について未知の点の多い化学物質による生態系への影響のおそれ
- 第4の危機(地球温暖化による危機)

# 持続する社会を支える4つの資本



(出典) 筆者(倉阪)作成

# 持続可能な経済を支える四資本

- ◆「人的資本」 人に対応
  - 他の人間に有用性(人的サービス)を与えることができる人間自身の能力
- ◆「人工資本」 人工物に対応
  - 人間に有用性(人工物サービス)を提供する人工物の機能
- ◆「自然資本」 物理的環境に対応
  - 人間に有用性(生態系サービス)を提供する生態系の機能
- ◆「社会関係資本」 制度に対応
  - 人々に共有された規範・価値・認識であって人々の協力関係を促進させるもの(=有用な制度)



# 持続部門

## ストックのメンテナンスを行う経済部門

人工資本の維持

モノを使い倒す経済

自然資本の維持

自然の恵みをムダにしない経済

人的資本の維持

教育、医療、介護を重視する経済

社会関係資本の維持

人と人とのつながりを重視したまちづくり

地域文化を形成し、日本の風土を守り育てる経済部門

(出典)筆者(倉阪)作成

# 今後の経済部門

## 成長部門

世界市場での競争力を維持し、外貨を稼ぐ経済部門

global

資源集約的

## 持続部門

地域の風土や住まい方に応じて、ずっと住み続けられるサービスを提供する経済部門

労働集約的

local

# 国と地方の 経済政策における役割分担

- 成長部門の経済政策は、国が行う必要性がある。
  - モノの生産・販売は地方自治体の区域を越えて行われる。
  - 世界市場での競争力を確保する必要がある。
  - 化石燃料、鉱物資源などを安定的に輸入する必要がある。
- 持続部門の経済政策は、まず、地方自治体が主体的に行う必要がある。
  - 地域の風土や住まい方に応じて進める必要がある。
  - 農産物生産、建築物などの維持管理
  - 地域文化を継承する教育
  - 地域主導での再生可能エネルギーの導入

# 四つの資本ストックの「たなおろし」と 地域政策の目標

## 四つの資本ストックの「たなおろし」

人工資本

地域に存在する建造物の更新時期別ストック  
活用されていない人工資本の状況

自然資本

人の手によって維持されている自然資本ストック  
活用されていない自然資本の状況

人的資本

コミュニティごとの人口・年齢構成の推移  
健康に働ける人口の状況

社会関係資本

人と人とのつながり、信頼感、犯罪率など、地域コミュニティ  
の機能

(出典)筆者(倉阪)作成

# 四つの資本ストックの「たなおろし」と地域政策の目標

## 四つの資本ストックに即した持続期の地域政策指標

人工資本

1人あたりの健全に活用されている人工資本量  
(活用されている建造物床面積)

自然資本

1人あたりの健全に活用されている自然資本量  
(手入れがされている人工林・農地面積)  
地域的エネルギー自給率・地域的食糧自給率

人的資本

地域人口に占める健康人口割合

社会関係資本

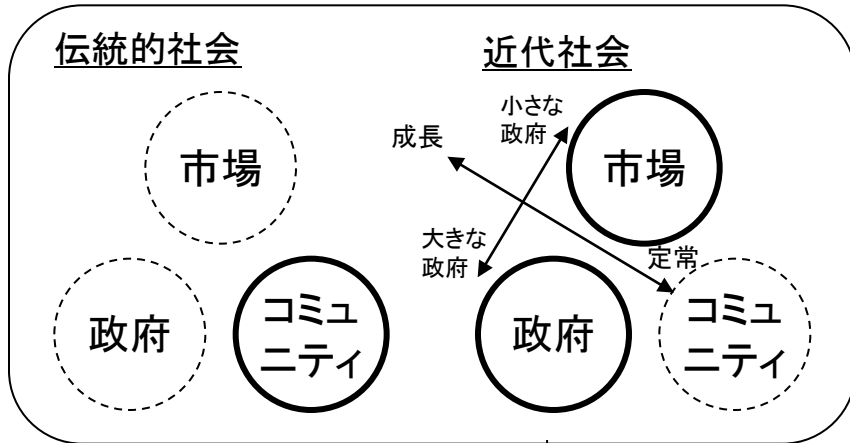
人と人とのつながり、信頼感、犯罪率など、地域コミュニティの機能を評価する指標

(出典)筆者(倉阪)作成

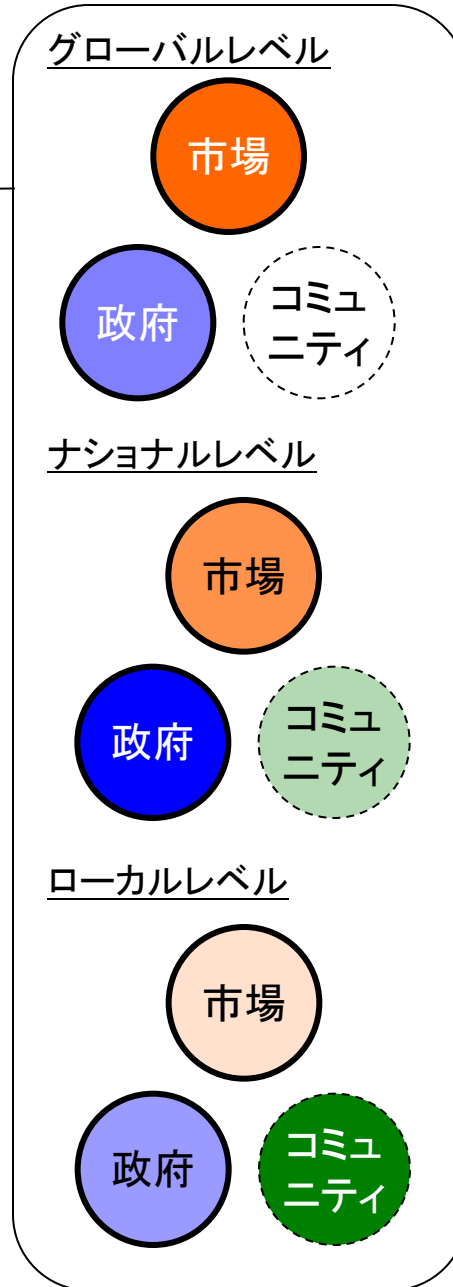
共時的シナリオ

ローカル→ナショナル  
→リージョナル→グ  
ローバルと推移するに  
従って、コミュニティが  
希薄になり、市場の力  
が強くなる。

通時的シナリオ

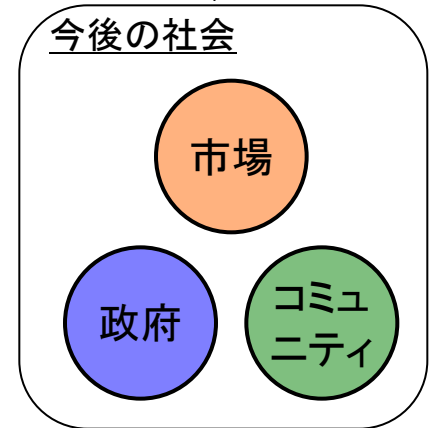


前近代社会での古い共同体規制が瓦解して、市場経済が開花した。小さな政府を志向する市場主義と、大きな政府を志向する社民ケインズ主義の対立軸は、いずれも成長・拡大を前提にしたものであり、持続可能性の基盤となるコミュニティは弱くなっていった。



コミュニティを中心とする公共がもたらす市場外的な判断をふまえて、所得分配の公正さと経済規模の持続可能性を確保しつつ、市場が効率的に資源配分する社会を形成する。

補完性原理に基づく地域からの「公共の組み直し」が必要



評価軸の検討

「社会の質」の条件的要因である  
①Socio-economic security  
②Social Exclusion、③Social Cohesion、④Social Empowermentから95の指標を検出し「市場、福祉と環境」の関係調べる。

社会の質アプローチ

持続可能な福祉社会

効率的な資源配分  
公正な所得分配  
持続可能な経済規模

持続可能な規模(環境)と公正な所得分配(福祉)については、市場を通じた価格調整のみでは確保することが難しい

エコロジカル経済学研究

効率的な資源配分の実現には機能を発揮、しかし、公平な所得分配、持続可能な経済規模を実現するには、市場外での判断が必要。

ポスト・フォーディズム・労働研究

質の高い労働から質の高い製品を生み出す経済システムが十分に国際競争力を持ち、これが労働集約的な環境負荷の少ない経済の将来像を示す。

市場を福祉・環境の要請と整合的に機能させる

CSR(corporate social responsibility)などにより市場の質そのものを高め、社会的市場を実現するための方策が必要。

公共主義的市場研究

市場

コミュニタリアニズム研究

コミュニティにおいては人間の生活や環境が可視的。コミュニティの存在感が増加すると、福祉・環境への配慮が実現されやすい。

政府

コミュニティ

国家ないし政府によるマクロな法的ないし政策的な市場規制は、公平な所得分配、持続可能な経済規模を実現するために必要。しかし、開かれた形で、過度にならないように、運用されるべき。

公共的市民に開かれた形でルール作りを進めていく

熟議民主主義・公共主義的民主主義研究

『人生前半の社会保障』を含め、持続可能な福祉社会を可能とする、「事後→事前」「フロー→ストック」に着目した新たな社会保障改革像を示す。

社会保障改革研究

公共的精神の涵養を基軸にしてマネジメントを本来の意味において公共的なものにしよとすることが必要。

New Public Management / Administration 研究

コミュニティやそれらのネットワークを活性化する

ローカル・レベルの森林や水利は、村落や水利共同組合などの地域的共同組織が管理運営の中核になることが、持続的自然利用の観点から効率的。

アジア環境・共同体研究

アジア型社会保障・福祉社会の検証やアジア福祉ネットワークを通じ、リージョナルレベルでの持続可能な福祉社会を構想

アジア福祉社会研究

人社研公共研究専攻での研究プロジェクト群

# 「公共学」

千葉大学人文社会科学研究所公共研究専攻(2006年設置)で授与

## 公共学の特徴

わが国で「公共学」博士を授与しているのは千葉大学のみ

グローバルな視野と世代間に関する深い認識を持ちつつ、バックキャスト型の手順に習熟し、「**思想(公共哲学など)と政策(公共政策)の統合**」によって、「**環境・福祉・平和などの公共的な価値(公共善)を実現する**」ことをめざす。

国家的・行政的観点を超えた「グローバルな新しい公共」という視点

実践性(産学官連携)

学際性・総合性・文理融合

### 政策

それらの世界像を実現するために適切な政策を検討し、その実現を図る。

### 思想

多角的で複数のシナリオや可能性を検討し、あるべき世界像を設定する。

目標

技術も選好も変わりうる長期的な時間的視野の課題

多様な文化・文明に関わりのあるグローバルな空間的視野の課題

現在地

公共的対話や公共的熟議



# 公共学の基本概念

・「人的資本」「人工資本」「自然資本」「社会関係資本」

・「持続可能な規模」という政策目標の認識



## 多文明世界

背景

・熟議による  
目標設定

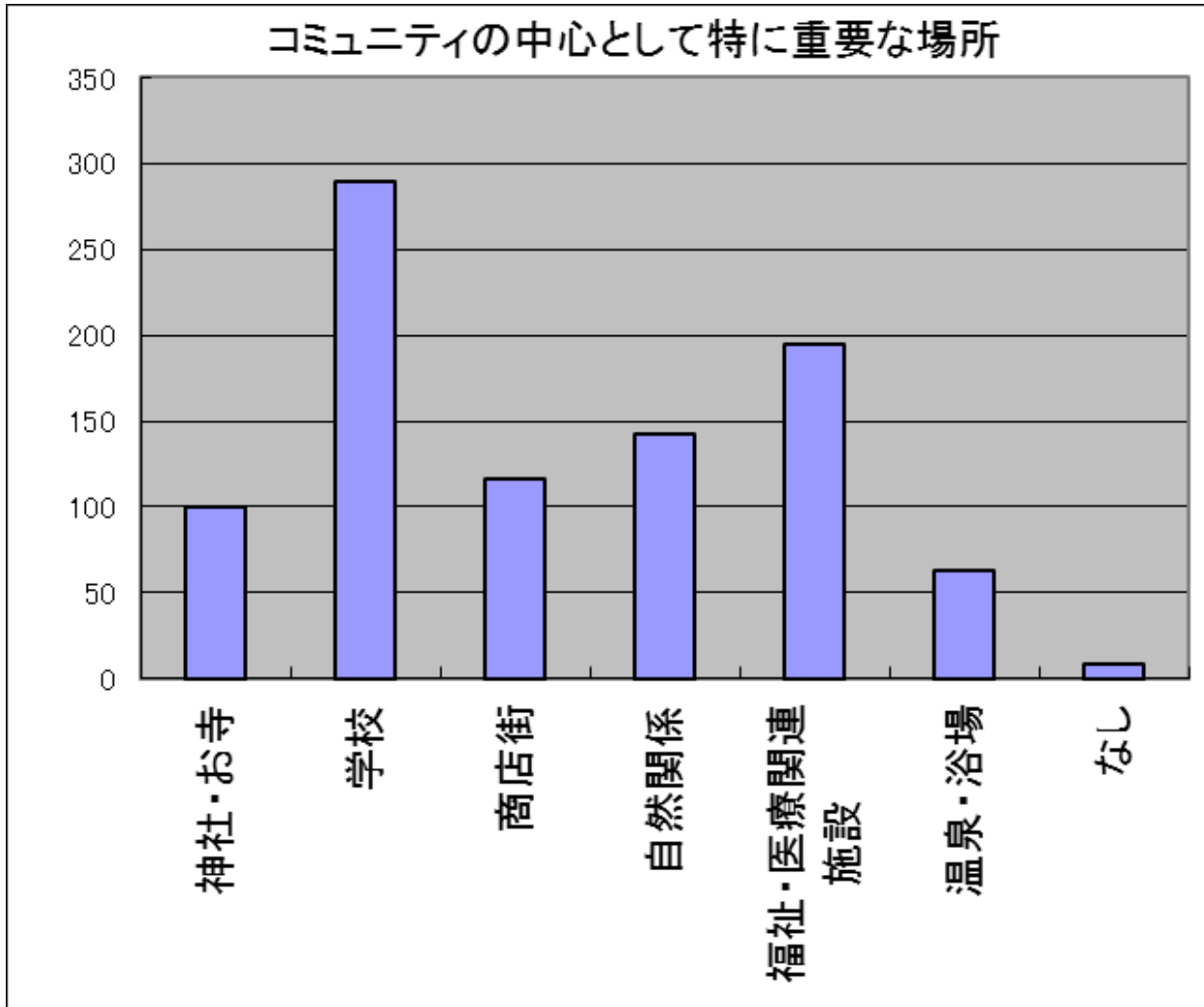


公共的精神／責任性、企業の公共(CSR)



・多文化的で、多層的存在としてのコミュニティの重視

# コミュニティの中心とは何か



出典)筆者(広井)作成(注)図示したほか、「その他」と回答した数が351あり(内訳は、公民館174、自治会館77、地区センター等68、コミュニティセンター等49など〔重複回答あり〕)。